



ハヤシテクノ (箕輪町)

特殊素材の射出成形で独自性を発揮

「射出成形」「金型」「特殊素材」を核とした三位一体のものづくりを手がける(株)ハヤシテクノは、「人財」育成や自社技術の向上・PRに力を入れ、経営基盤の強化を図ろうとしている。

金型設計から自社対応

1979年、岡谷市で設立したハヤシテクノ(当時の商号は林プラスチック製作所)。当初はプラスチック射出成形を手がけ、82年に根橋製作所(箕輪町)の支援を得て箕輪町に移転、85年にはリードフレームと複合成形の自動化もスタートさせたが、90年前後にはプラスチックマグネット製造へ参入、成長に向けた大きな転機を迎える。

磁粉が練り込まれたプラスチックを用いて加工されるプラスチックマグネット。モーター・センサー向けをはじめ需要の幅は広く、その加工には高度な技術が必要とされている。ハヤシテクノでは射出成形・金型技術のほか、自動化技術も組み合わせ、独自のノウハウを構築。特に自前の金型製作部門を持ち、その設計から自社で対応できることが強みとなっている。最終製品でみると、同社のプラスチックマグネットは自動車を中心に家電製品、遊技機などに活かされているという。

一方、マグネット材のほかPPSなど高機能樹脂を使った射出成形も得意としている。

最大の経営強化策は「人財」育成

マグネット材や高機能樹脂といった特殊材質の射出成形。県内でも加工業者は少ないとされ、その希少性が安定した業績の一因となっているが、「これまで好転してきた景気も、近い将来必ず落ち込む時が来る」(林史章社長)として、その時を見据え、経営基盤の強化に努めている。業務を数

値化(見える化)し、客観的に判断できるようにしたのもそのひとつ。そして、最大の強化ポイントとするのが、最も大切な資産と位置づける「人財」の育成だ。従業員が主体的に判断し、自分から行動できるように変わることを目的として、外部講師を招いての勉強会や外部研修への参加を積極化、手応えを感じている。

「人間は誰も、考え方や行動を変えるのは簡単なことではない。だからこそ、他責にする前に、まず『自分は何ができるのか』と出来事をとらえ自分から変わる、自分から動くことが大事」と林社長。また、「会社は働きながら人間として成長できる“おとなの学校”のようなものでありたい」としたうえで、「会社のため、社長のためではなく、自らが大切に思う人達や自分の幸せな未来のために働いてもらえたら」と口にする。

自社技術のPRにも意欲的

箕輪町に本社(第一工場)、第二工場、金型工場の3拠点、海外には香港、中国の2拠点を構える。この4月に第一工場の増設が完了、今後も国内外の工場で設備投資を予定している。新たな需要開拓に向け、営業部門を充実させるほか、これまであまり行ってこなかったという自社技術のPRにも意欲を示しており、今年是中国における展示会への出展を計画している。

社長就任後4年が経過。「就任前、社長は大変でつらいことばかりとのイメージが強かったが、実際に経験し、やりがいを実感している」と話す林社長は、これからも顧客や従業員との信頼関係を大切にして、足腰の強い企業の実現を目指していく考えである。



ハヤシテクノ本社・第一工場

【株式会社ハヤシテクノ】

企業コード: 300095844 法人番号: 9100001021828、
資本金1500万円、1979年7月設立、上伊那郡箕輪町
中箕輪10800-119、代表取締役社長林史章氏、従業員
40名。2017年5月期の年売上高は約8億100万円。